

嵐山町で感動体験

四季折々違った表情を見せてくれる嵐山町の自然は、
何度訪れても驚きや感動があります。

嵐山町名の由来

昭和初期、日本初の林学博士、本多静六博士が訪れた時、京都・嵐山に似ていると「これは『武蔵国の嵐山(むさしのくにのあらしやま)』だ」といったことから、嵐山(らんざん)と命名されました。展望台エリアでは「嵐山町名発祥之地」碑を見ることができます。

嵐山溪谷

らんざんけいこく

B 6・7

周囲の木々が織りなす見事な景観の嵐山溪谷は、多くの観光客が訪れる埼玉県屈指の景勝地です。水面に映る彩りと都心から1時間とは思えない景色が楽しめます。遊歩道が整備されており、展望台や、与謝野晶子歌碑など、見どころも多く、ヤマザクラやヤマツツジ、青モミジや秋の紅葉など、四季折々違った顔をみせてくれます。

 嵐山町鎌形地内



B 6

嵐山溪谷展望台

らんざんけいこくてんほうだい

溪谷が輝く秋の景色を一望に

展望台から与謝野晶子歌碑へ遊歩道で向かうのも見どころです。

与謝野晶子歌碑

よさのあきこかひ



B 7

「槻の川 赤柄の傘をさす松の立ち並びたる山のしのめ」昭和14年に日本を代表する歌人と謝野晶子が訪れ、溪谷の自然をテーマに「比企の溪」をうたいました。



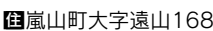
A 6

遠山の甌穴群

とやまのおうけつくん

長い年月をかけた自然の造形美

槻川に大きな丸い穴がある岩があります。水流による浸食で表面にできたくぼみに、小さな石が岩の上で一か所でクルクルまわり少しずつ石が削られて穴があいたもの、甌穴です。長い年月によってできた、自然による造形美です。人が入れるくらいの大きな穴がある岩もあります。

 嵐山町大字遠山168



せんねんのその

千年の苑 ラベンダー園

ラベンダーの見ごろは6月上旬～下旬

ラベンダーは花を見るだけでなく、香りを楽しみ、ポプリにしたり、香料にしたりとたくさんの用途があります。花穂が濃い紫色になり、花が咲く寸前が最も香りが強いといわれ、毎年6月には、一面に広がるラベンダーの景色と甘い香りに包まれます。ラベンダーの見ごろに合わせて「らんざんラベンダーまつり」が開催され、また、季節によってポピーやひまわりなどの花も楽しめます。

 嵐山町鎌形2326

嵐山町の歴史を学ぶ

畠山重忠や木曾義仲といった、歴史上の重要人物にゆかりのある嵐山町。歴史深い嵐山町には、数多くの史跡が今も残っています。



「武士の鑑」と慕われた鎌倉時代に活躍した武将

畠山重忠

はたけやま しげただ

鎌倉時代初期、1164年に秩父氏の一族として「畠山の館」(現深谷市)に生まれ、その後嵐山町に居を構えたといわれています。

有力御家人として將軍・源頼朝の信頼が厚く、木曾義仲追討や奥州合戦など源平合戦で数々の戦功をあげました。重忠の人柄を表す有名なエピソードが「鴨越(ひよどりごえ)の逆落し」。平家軍を追討する一ノ谷の戦いの際、愛馬・三日月をいたわって、重忠が三日月を背負って崖を降りたというお話は今でも語り継がれています。このように怪力の持ち主で、さらに文武両道に優れ、誠実で思いやりのある重忠は後世、「武士の鑑」と讃えられました。

頼朝亡き後、幕府の権力を握ろうとした北条氏の謀略により、42歳でこの世を去りました。



菅谷館跡に建つ畠山重忠公像

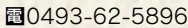
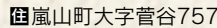
続日本100名城が嵐山町に2か所！菅谷館跡

すがややかたあと

C 6

菅谷館(菅谷城)は鎌倉幕府の有力御家人として知られる畠山重忠の館跡と伝えられています。現在見られる城跡は戦国時代の城で続日本100名城に選定され、また比企城館跡群として国指定史跡です。

埼玉県立嵐山史跡の博物館

 0493-62-5896  嵐山町大字菅谷757



重忠が居住した菅谷館跡。国の史跡に指定されています。



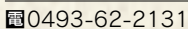
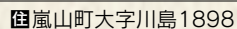
縄張り図

鬼鎮神社

きちんじんじゃ

D 5

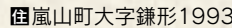
全国でも珍しい、鬼を大切にしている神社です。1182年、畠山重忠が住む菅谷館の鬼門封じとして創建されたのが始まりといわれています。境内のいたる所に鬼を見ることができ、まさに鬼が主役の神社です。強さの象徴である「鬼」は勝利の神様として全国から参拝者が訪れます。節分のかけ声は、「福はうち、鬼はうち、悪魔そと」。地域の伝統行事として長年受け継がれています。

 0493-62-2131  嵐山町大字川島1898



木曾義仲

きそ よしなか

鎌形八幡神社 

B 7

嵐山町で生まれ平安時代末期に活躍した豪傑な武将で、平家を破った源氏の中心人物として有名です。父義賢が大蔵の地で非業の最期を遂げた時、わずか2歳だった駒王丸(後の義仲)は命を助けられ、信濃国(長野県)へ逃げ延びます。その後、1180年に義仲は以仁王の令旨を受けて木曾で平家追討のため挙兵。数々の戦いで平家を倒し、征夷大將軍に任じられます。ところが、源範頼・義経軍に敗れ、わずか31歳で生涯の幕を閉じます。嵐山町では現在でも木曾義仲産湯の清水がある鎌形八幡神社や義賢の墓、義仲の愛妻山吹姫の墓など、義仲ゆかりの地を巡ることができます。



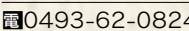
産湯の清水

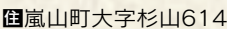
高度な築城技術が高く評価され「築城の教科書」杉山城跡

すぎやまじょうあと

B 4

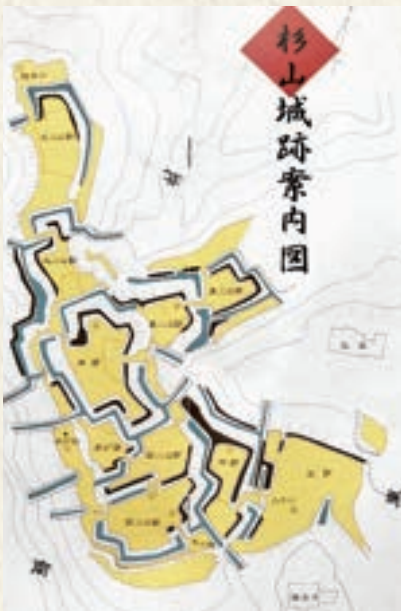
戦国時代の山城で、本郭を中心に3方向へ広げた郭の塁線には折とよばれる敵方の見通しを悪くするための屈曲を多用し、ほぼすべての虎口には、側面から矢を射掛ける横矢が仕掛けられる等、高度な防御施設が各所に見られます。「築城の教科書」、戦国期城郭の最高傑作のひとつと評されています。また、比企城館跡群として国指定史跡であり「続日本100名城」に選定されました。

 0493-62-0824(嵐山町生涯学習課)

 嵐山町大字杉山614



杉山城跡航空写真



縄張り図

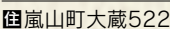
大蔵館跡(大蔵神社)

おおくらやかたあと

おおくらじんじゃ

C 7

仁平3年(1153)に木曾義仲の父・源義賢が秩父重隆の娘をめとり、移り住んだ館跡とされます。現在見られる城跡は戦国時代の城です。義賢は、源氏の棟梁、源為義の次男として生まれ、近衛天皇が皇太子のときに東宮警護の長官である帯刀先生を務めました。しかし、部下の不始末によって職を追われ、北陸から上野(群馬県)とまわり大蔵(埼玉県)へと来ました。

 嵐山町大蔵522

